福祉援護センター

運営方針のご提案

2024年 9月30日　社会福祉法人 海風会

海風会の歴史

- 昭和 33 年に知的障害児 3 名 の受け入れから始まる。
- 利用者が成人を迎えるにあたり、昭和 53 年に成人期の支援を開始。
- ニーズに合わせて事業展開を続け、
  重度知的障害児者の支援を横須賀市で 60 年以上続ける。

現在の海風会の事業

児童発達支援・
放課後等デイサービス

4か所

生活介護事業所

1か所

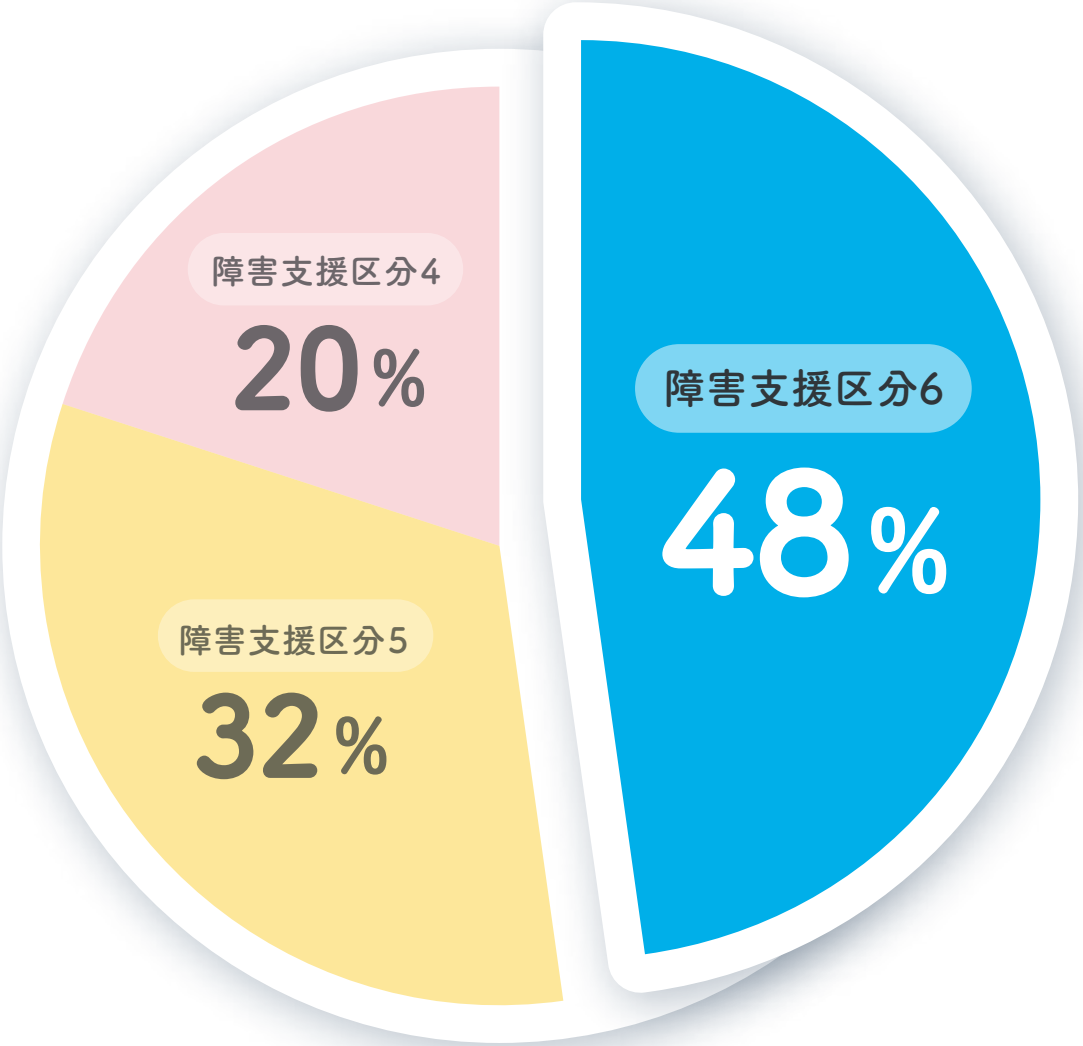
入所施設

7か所

グループホーム

支援区分の割合

法人全体の生活介護事業所（140 名）における割合



グループホームや
入所施設においても、
同様の割合で

**重度知的障害を
抱えた方々の
生活をサポート。**

福祉援護センターにおける新たな事業展開

海風会だからこそできること

1 安定的な通所の確保のための送迎サービス

コース別の送迎・最寄駅間の送迎

2 手厚い相談支援

法人内の既存の相談支援センターと一体化した運営

福祉援護センターにおける新たな事業展開

海風会だからこそできること

3 保護者のための日中一時支援

利用者の希望に応じ、受け入れ枠を確保

4 緊急短期入所

同一法人内の入所施設（いちばん星）を利用した緊急時の受け入れ

福祉援護センターにおける新たな事業展開

海風会だからこそできること

5 地域移行に向けた グループホーム

既存のグループホームを活用した地域移行

6 重度障害者の支援

これまでの経験を活かし、重度知的障害者や強度行動障害者の支援を行う

同一法人内で連携しながらサポートを行い、福祉援護センターを中心とした横須賀市の地域生活支援拠点等の一翼を将来的には担うことを想定しています。

福祉援護センターの新しいコンセプト

これからの
福祉援護センターに
求められるもの

利用者一人ひとりが無理なく地域生活へと移行していけるような

将来を見据えたオーダーメイドのきめ細やかな支援

トランジッションとは

大人への
トランジッション

支援学校から福祉援護センターに移ってきたあと６年間は「大人になる準備期間」

家庭での役割や地域での役割を考える。

自律への
トランジッション

様々な経験、参加の機会を得ながら人と関わりを築く。

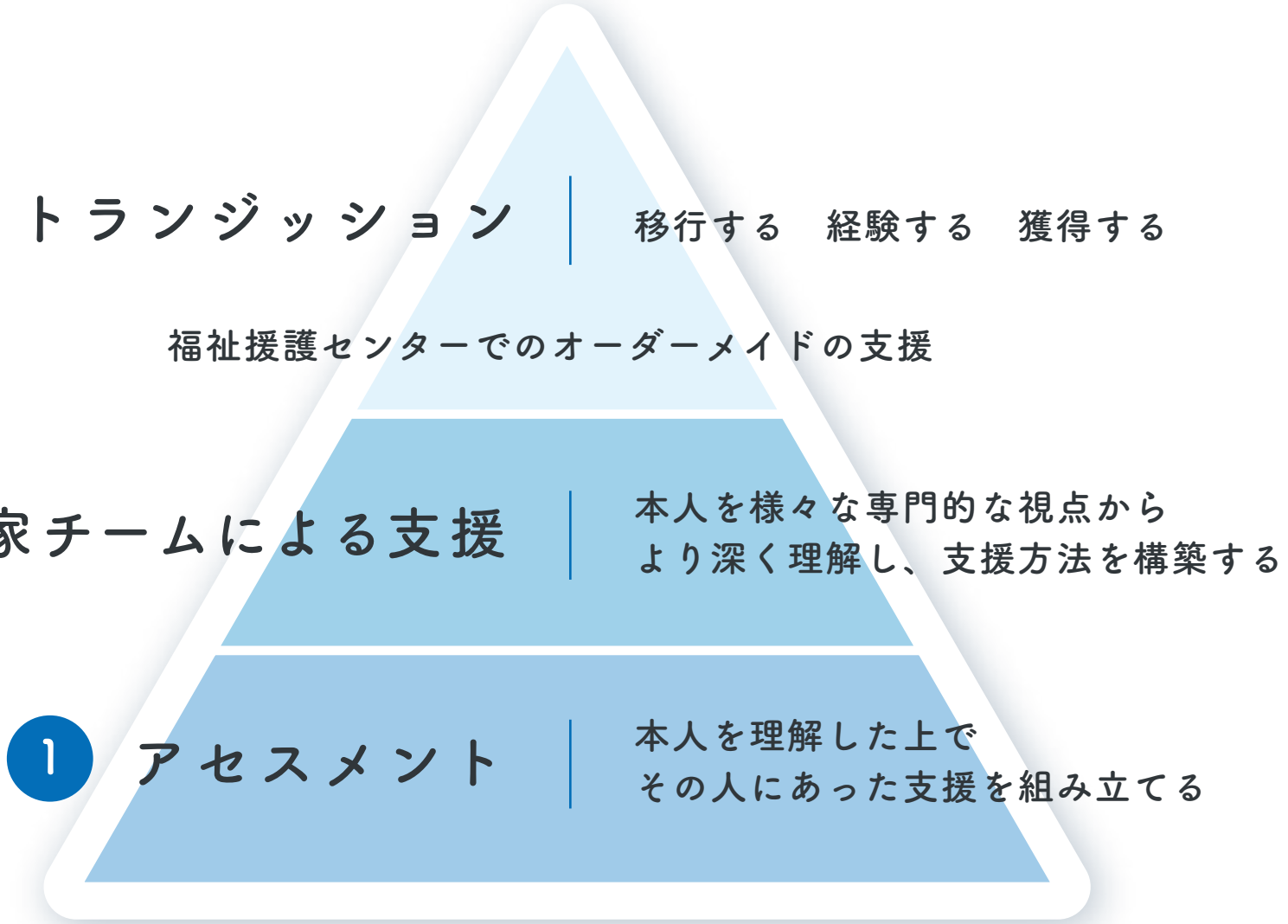
少しづつ「自分のことは自分で決めていく」(自律)力をつけていく。

社会への
トランジッション

新たな居場所を地域の中に見つけていく。

移行がスムーズにいかなくても、福祉援護センターに戻って、移行の準備をやり直せる。

トランジッションを成功させるための２つの機能



1 アセスメントとは

ICF（国際生活機能分類）モデルに基づいて

カテゴリ 1	カテゴリ 2	カテゴリ 3	カテゴリ 4	カテゴリ 5
心身機能・構造	活動	参加	環境因子	個人因子

カテゴリごとに下記を明らかにする

1. 本人の状態
2. 本人のニーズ
3. 本人が必要とする具体的な支援

それぞれのカテゴリにおいてどのような支援が必要なのかを整理し、

移行に向けた「本人が必要とする具体的な支援」を集約し、支援目標と支援内容を個別支援計画に反映。

❷ 専門家チームによる支援とは

アセスメントのプロフェッショナルバージョン

福祉援護センターだけではアセスメントが難しい一部の利用者に対して、外部の専門家とより深いアセスメントを行い個別の支援を実践

外部の専門家の例

- 神奈川県立保健福祉大学
- 社会福祉法人 清和会（三浦しらとり園）
- 社会福祉法人 みなと舎
- 社会福祉法人 横須賀たんぽぽの郷 わたげ

トランジッションで目指す次のステップ

支援事例｜Aさん 福祉援護センターから受け入れ

食べられるものが増え、日々の活動に落ち着いて参加できるように

受け入れ時

- 偏食が多く、昼食（給食）が食べられない。
- 頓服薬の服用が多く、活動の妨げに。
- 自分やスタッフを傷つけてしまうことが度々。

支援

- 食事の傾向をまとめ、気になるもの（食材）を予測した。また、自分で嫌いなものを別皿に避ける習慣付けを行なった。
- 自傷や他害行動の頻度やきっかけを支援者間で共有し、不調になる前に介入した。

支援事例｜Aさん 福祉援護センターから受け入れ

食べられるものが増え、日々の活動に落ち着いて参加できるように

現状

- 喫食量が増え、午後～夕方にかけての不調が減少した。現在、支援者の介入なく食事を摂り、平均しておかず半量以上、白米は全量摂っている。

- 受け入れから1年経過した頃には、他害行為は減少傾向となり、現在は半年に1回程度。自傷行為も頻度が減ったことで頓服薬は使っていない。

支援事例｜Bさん 福祉援護センターから受け入れ

施設に入ることも難しかった方が、グループホームでの生活を実現！

受け入れ時

- 自宅では各部屋施錠対応。
- 駐車場に座り込み、半日施設に入れないことも…。
- 手遊びを好み、支援者を独占することが度々。

支援

- 駐車場から下駄箱までのルートを変更し、拘りやパターン崩しを行なった。
- 施設だけでなくご家庭の大変さを知るために、家庭訪問を実施。ご家族の苦労を知り支援の幅を広げるため、宿泊施設や公共施設での宿泊体験を行なった。
- 特定のスタッフだけでなく、スタッフが適宜入れ替わることで独占を解消した。

支援事例｜Bさん 福祉援護センターから受け入れ

施設に入ることも難しかった方が、グループホームでの生活を実現！

現状

- 駐車場での座りこみは格段に減り、日々の活動に参加できるようになった。
- 25歳の時に海風会グループホームに入居。20年経った今もグループホームで生活している。
- スタッフ独占傾向はあるが、座り込みや停滞はほとんどなく活動に参加できている。